

車椅子 側方崩れ 評価・調整記録シート

可動性を確認 → 1か所だけ条件変更 → 同条件で再評価

1 | 基本情報・評価条件

日付：_____ 対象者：_____ 記録者：_____

車椅子： ☐ 標準 ☐ ティルト/リクライニング ☐ その他（ ） クッション：_____

靴： ☐ あり ☐ なし 座り直し： ☐ 実施 ☐ 未実施 フットサポート（高さ・前後位置）：_____

安全確認 | 急な姿勢変化・強い疼痛・消退しない発赤/創傷・意識/全身状態の変化がある場合は、シーティング調整だけで処理しない。

2 | 最初に可動性を判定する

臥位または除重位で、中間位方向への可動・代償・疼痛を確認する。

判定	見方	基本方針
☐ 可動性あり	中間位方向へ動かしやすい	許容範囲で整え、その位置を支持
☐ 部分的に可動	抵抗はあるが一部戻せる	全矯正せず、無理のない範囲で支持
☐ 固定性が高い	戻そうとすると代償・疼痛・明らかな制限	無理に水平化せず、変形に適合して支持

3 | 確認領域を分ける（正式分類ではなく、調整箇所を整理する実務上の確認枠）

領域	確認する所見
☐ 骨盤・座面	骨盤高差／坐骨荷重の左右差／回旋／クッションの沈み込み
☐ 体幹・背もたれ	側屈／肩高差／背もたれとの接触／支持なしでの保持
☐ 下肢・足部	足底接地／左右の膝位置／フットサポート高・前後位置／片足の踏み込み
☐ 圧・皮膚	坐骨・大転子周囲の発赤／局所圧／底付き／左右の沈み込み

4 | 今回変更するのは1か所だけ

変更領域： ☐ 骨盤・座面 ☐ 体幹・背もたれ ☐ 下肢・足部 ☐ その他（ ）

変更前の条件：

変更内容：

5 | 同じ条件で再評価する

同時に別の箇所を変えず、調整前後を比較する。

再評価項目	調整前	調整後	判定
骨盤傾斜			☐ 改善 ☐ 不変 ☐ 悪化
肩高差・体幹側屈			☐ 改善 ☐ 不変 ☐ 悪化
局所圧・皮膚			☐ 改善 ☐ 不変 ☐ 悪化
安楽さ（本人の訴え）			☐ 改善 ☐ 不変 ☐ 悪化
上肢活動			☐ 改善 ☐ 不変 ☐ 悪化
一定時間後の再崩れ			☐ 改善 ☐ 不変 ☐ 悪化

6 | 判断

☐ この調整を採用 ☐ 別領域を1か所だけ変更して再検証 ☐ 詳細評価・相談へ進む

固定性が高い場合は無理に水平化しない。局所圧・皮膚・疼痛が悪化する調整は採用しない。

7 | 申し送り：条件 → 変更 → 反応 → 次回確認

条件： _____

変更： _____

反応： _____

次回確認： _____

※「5分チェック」は標準化された評価尺度ではなく、本記事で整理した簡易確認手順です。正式なシーティング評価や施設手順を代替するものではありません。